

## 幼児子育て期における家族からのサポートの重要性

中見 仁美<sup>1</sup>・桂田恵美子<sup>2</sup>・石 暁玲<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 園田学園女子大学短期大学部

<sup>2</sup> 関西学院大学文学部

<sup>3</sup> 東京福祉大学心理学部

### 問 題

21世紀に入った現代社会においても、子育ては主に母親の役割とされている。しかし、母親の育児不安の問題や働く母親の増加に伴い、子育てへのサポートが注目されてきている。核家族が大多数となっている現代社会において、母親が子育てサポートとしてもっとも頼れるのは、夫である。そして、夫が育児に参加することは、母親や子どものよりよい成長・発達を促すとされている(数井・無藤・園田、1996;芳賀、2001;寺見ら、2008)。

さらに近年では、共働き世帯が専業主婦世帯を逆転し(田淵・中原、2007)、夫以外からの育児サポートの重要性も示されている。渡辺・石井(2009)は、育児遂行にあたってのサポート源を、夫や実母、義父母などの親族による家庭内サポートと、友人や専門家などの家庭外サポートに分類し、家庭内における夫以外のサポートの重要性を述べている。また野澤(2009)は、サポート源について先行研究を整理し、祖父母、夫、友人が中心であると報告している。

田淵・中原(2007)によると、共働き世帯の増加により、特に祖父母世代が家庭で子育てを支援することが多くなってきている。実際の祖父母の子育てサポートについて、1歳6ヶ月児のいる家庭で育児を行っているのは、母親(95.4%)と父親(49.4%)に次いで、祖母(26.1%)、祖父(10.6%)となっており、祖父母が育児にかかわっていることが報告されている(高齢社会白書、2005)。全国家庭動向調査(2008)では、母親が出産や育児の相談相手として心理的に頼りにするのは、夫(39.3%)よりも母親方の祖父母(44.8%)とされている。高齢社会白書(2005)でも、母親は子育ての相談相手として、夫の次に、実父母を挙げて頼りにしている。山田・有吉・堀川・石原(2005)は、乳幼児期や学童期の子どもを持つ働く母親18名を対象に面接調査を実施したところ、半数の母親が実母を遠慮しないで子どもや家事を頼める唯一の存在として、物理的・情緒的・経験的サポート源として頼りにしていたと報告している。このように共働き世帯が多くなってきている現在では、特に母親の両親を頼りにしていることが多く、現在の子育ては祖父母を抜きに成立しにくいと言える。

母親の子育てをサポートする祖父母について、母親方と父親方の比較も行われている。松田(2002)は居住地域によって、育児ネットワークのサポート効果が異なり、調査対象とした東京

都心部のサポート・ネットワークでは、母親方の親族のサポートは母親の育児満足度を上げ、父親方の親族サポートは母親の育児満足度を下げることが示し、母親方の親族サポートの重要性を指摘している。興津（2002）は幼稚園児あるいは小学1年生の母親を対象に、母親方の祖母との同居、父親方の祖母との同居、同居なしの3群を比較し、母親に対する育児サポートを調査している。その結果、実母と同居している母親は、ほかの2群よりも多くの育児援助を受けている分、夫からのサポートを受けることが少ないと報告されている。また実母から多くのサポートを受け、実父や夫など同居している家族からのサポートも充足しているため、母親はほかに育児援助を求めていなかった。つまり、同居している実母の育児サポートが母親にとって、非常に有益であることが分かる。このように松田（2002）や興津（2002）の研究から、母親の実母が多大なサポート源になっていることがうかがえる。

一方、野澤（2009）の同居家族の違いによるサポートについての調査は、興津（2002）とは異なった結果を示している。野澤（2009）の結果では、父親方の両親と同居している母親のほうが母親方の両親、つまり実父母と同居しているよりも、情緒的にも手段的にもサポートを受けると感じ、肉体的・精神的負担を感じていない傾向にあった。また中西（2005）は5歳以下の幼児がいる核家族の母親にとって、母親方の親族からのサポートは親族として、さらに同じ地域に居住しているという逃げようのない結びつきという義務的な側面を持っているため、サポートに対する満足度が低かったとしている。これについて中西は、母親方の親族サポートは、これまでの親族関係のよし悪しにかかわらず、頼りにせざるえないところがあるため、葛藤が生じやすいと結論付けている。

このように、実母からのサポートに関しての先行研究は矛盾した結果を示しており、実母からのサポートが母親にとって真に有益であるのかどうか疑問が生じる。今後、さらに共働き世帯が増加し、祖父母などの家族内サポートが重要になると考えられることから、家族内サポート、特に実母から得られるサポート、家族外から得られるサポートが実際にどのようなものであるかを再検討する必要がある。

またこれまでの研究は、同居か別居かでサポートを捉えているものが多い（例えば、興津、2002；野澤、2009）。しかし、亀口（2002）は祖父母との同居あるいは別居に関して、三世代同居家族が減少しているが、電話などの通信手段、飛行機や新幹線、高速道路などの交通手段の整備により、別居していても祖父母と親世代の心理的なかかわりの継続を指摘している。つまり、物理的な距離よりも心理的な距離のほうが重要であるとしている。実際に、父親方、母親方のどちらかの祖母と30分未満の距離<sup>1)</sup>に住む割合は54.8%と半数を超えている（全国家庭動向調査、2008）。

これらのことから同居・別居という分類よりも、亀口の見解や全国家庭動向調査の結果が示すように、祖父母と同居はしないで近くに居住している場合でも、母親の育児へのサポートに影響を与えることが考えられる。そのため、同居・別居という分類よりも、より実質的な交流や心理的な距離を考慮するほうが現実的であると考えられる。

ほかにも夫や祖父母から得られる家族内の育児サポートは、母親の養育態度や子どもの社会的行動にも影響を与えるとされている。飯島（1997）は、幼稚園児の父親の平等な性役割観や母親への育児サポートが、子どもの社会性の発達に良い影響を与えているとしている。森下・木村（2004）は母親の受容的態度の形成には、夫、母親方の祖父（母親の実父）からの情緒的な育児サポートが大きく影響しているとしている。武内（2002）は夫のサポートを必要とし、夫を頼ることができる母親は、拒否的あるいは過保護的養育態度が低いとしている。しかし、これまで先行研究において、母親への育児サポートが夫以外の家族、あるいは家族外からのサポートが母親の養育態度、子どもの社会的な発達についてどのように関連しているかについて検討された研究はあまりない。

そこで本研究では、幼児期の子どもを持つ母親が夫あるいは夫以外、特に実母、さらに家族以外からどのような育児サポートを受けているのか、実母からの育児サポートの有無によって母親の養育態度、子どもの社会的行動とどのような関連があるのかを検討する。

## 方 法

### 1. 調査対象者

大阪府内の幼稚園と兵庫県内の幼稚園の2園に通う幼児の母親212名に質問紙を配布し、139名（65.6%）から回答を得た。139名の母親の子どもは男児70名、女児69名で、子どもの平均年齢は5.21歳（ $SD = 2.64$ ）であった。母親の平均年齢は35.22歳（ $SD = 4.00$ ）で、就業状況はフルタイム3.5%、パートタイム15.6%、専業主婦78.7%であった。父親方あるいは母親方の祖父母と同居している母親は3名のみであった。

### 2. 質問紙

(1) 母親の養育態度に関する質問紙：鈴木・松田・永田・植村（1985）が作成した10因子の尺度を戸田（2006）が7因子にした「親の養育態度尺度」を本研究では使用した。この質問紙は7つの下位尺度（1「受容／子ども中心主義」、2「統制／専制的」、3「一貫性のないしつけ」、4「服従的」、5「過保護」、6「甘やかし」、7「放任」）で構成されている。「受容／子ども中心主義」は「家で子どもと楽しい時間を過ごす」など14項目、「統制／専制的」は「子どもがすべきことをちゃんとしてしまうまで、何回も指示する」など10項目、「一貫性のないしつけ」は「子どもが同じことをしていても、時によって叱ったり、放っておいたりしてしまう」など7項目、「服従的」は「子どものしたいことは何でもさせている」など6項目、「過保護」は「子どもに何か起こるといけないから、あまりよそに行かせないようにしている」など7項目、「甘やかし」は「子どもが物を欲しがると、だめと言えない」など3項目、「放任」は「やってはいけないと私が言ったことを子どもがしていても、黙っていることがある」など3項目、計50項目あった。「そうでない」から「そうである」の5件法で、得点が高いほど、下位尺度の傾向が高いことを示

す。

本研究において各下位尺度における  $\alpha$  係数を求めたところ、「受容／子ども中心主義」.802、「統制／専制的」.814、「一貫性のないしつけ」.698、「服従的」.608、「過保護」.567、「甘やかし」.378、「放任」.052 となった。「甘やかし」と「放任」は  $\alpha$  係数が極端に低いいため、分析から除外した。

(2) 子ども（幼児）の社会的行動に関する質問紙：母親の発達期待を測定するカード分類課題（Developmental Expectation Questionnaire：DEQ）を参考に幸田・城谷（1998）が作成した質問紙を用いた。この質問紙は 21 項目からなり、1「学校関係スキル」、2「従順」、3「礼儀」、4「情緒的成熟」、5「自立」、6「社会的スキル」、7「言語による自己主張」の 7 領域に分類される。「学校関係スキル」は「30 ページくらいの絵の多い童話を一人で読み通すことができる」など 3 項目、「従順」は「悪いことをして注意されたら、すぐやめる」など 3 項目、「礼儀」は「朝、家族におはようとあいさつする」など 3 項目、「情緒的成熟」は「いつもまでも怒ってないで自分で機嫌を直す」など 3 項目、「自立」は「大人に手伝ってもらわずに、一人で食事ができる」など 3 項目、「社会的スキル」は「自分のおもちゃを友達に貸してあげて、一緒に遊べる」など 3 項目、「言語による自己主張」は「意見や希望を聞かれたら、はっきり述べる」など 3 項目であった。「全然ない」から「非常によくある」の 5 件法で、得点が高ければ高いほど、その領域の発達が優れていることを示す。

本研究において各下位尺度における  $\alpha$  係数を求めたところ、「学校関係スキル」.571、「従順」.330、「礼儀」.204、「情緒的成熟」.587、「自立」.506、「社会的スキル」.534、「言語による自己主張」.769 となった。「従順」と「礼儀」は  $\alpha$  係数が極端に低いいため、分析から除外した。

(3) 母親に対する周囲からのサポートについて：母親が自分をサポートしてくれていると認知している人数を尋ねた。さらに実際にサポートを提供してくれている人物が誰であるのかを尋ね、夫・実母・実父・義母・義父・それ以外の親族・友人・幼稚園の先生などの公共の人のなかから、あてはまる人物すべてを回答（複数回答可）するよう求めた。また祖父母について、同居の有無、また別居の場合、祖父母との交流頻度を 1「非常に交流がある（毎日のようにかかわる）」、2「まあまあある（週に 1～2 回）」、3「時々ある（1 ヶ月に 1～2 回くらい）」、4「あまりない（夏休み、冬休み程度）」、5「全くなし」の 5 件法で尋ねた。

さらに、石・桂田（2010）が作成した子育ておよび本人へのサポート内容を問う質問紙を用いて、全体的にどのようなサポートを受けているのかを尋ねた。この質問紙は「つらいときや困ったとき元気づけてくれ、接すると心が落ち着く」、「子どもが病気のときに病院の同行や家事などを手伝ってくれる」など 20 項目からなっている。各項目は「全然ない」から「非常によくある」の 5 件法で、得点が高ければ高いほど、サポートされていることを示す。本研究での  $\alpha$  係数は .939 であった。

### 3. 手続き

2010年11月初旬に母親への質問紙を封筒に入れ、幼稚園を通じて配布し、1週間後に回収した。

## 結 果

母親が認知しているサポート源について回答を求めた結果、夫が126名ともっとも多く、ついで友人が97名、実母が95名、実父41名、実父母、義父母以外の親族41名、義母35名、義父25名、幼稚園の先生など公共の人24名であった。本研究では、夫からのサポートよりも実母からのサポートによる違いを検討するため、実母のサポートを中心にサポートパターンを見た。

Table 1には、もっとも多かった夫と実母をサポート源とするサポートパターンで、他にどのようなサポート源を挙げているかを示した。Table 1にあるように、夫からも実母からもサポートを受けている母親は86名で、夫と実母以外に友人からサポートがあると認知している母親が16名ともっとも多く、次いで夫・実母・実父が8名、夫・実母・実父・義父母以外の親族と友

Table 1 夫と実母からサポートを受けている母親のサポート源のパターン

サポート源																												
夫	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
実母	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
実父	○				○	○	○					○	○	○				○	○	○			○	○				
義母		○				○			○	○			○			○	○	○		○	○	○	○	○				
義父								○	○						○				○	○	○	○	○	○				
親族			○			○				○			○			○		○	○	○	○	○	○	○				
友人				○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
公共の人					○						○		○			○	○		○	○		○	○					
合計	6	8	1	2	16	1	1	2	5	1	1	1	7	1	3	1	2	3	2	3	2	3	2	1	1	4	1	86

\*表の見方：縦に複数回答したパターンを示している。(名)  
(例) 夫・実母からサポートを受けている母親6名

Table 2 夫からサポートを受けている母親のサポート源のパターン

サポート源													
夫	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
実母													
実父					○					○			
義母									○		○	○	○
義父									○			○	○
親族			○			○				○	○	○	○
友人				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
公共の人							○		○			○	
合計	13	2	12	2	3	2	1	2	1	1	1	1	40

\*表の見方：縦に複数回答したパターンを示している。(名)  
(例) 夫・友人からサポートを受けている母親12名

**Table 3** 夫からサポートを受けていない母親のサポート源のパターン

サポート源									
夫									
実母	○			○	○	○	○	○	○
実父				○	○		○		
義母		○					○		
義父		○					○	○	
親族			○	○		○		○	○
友人	○		○		○	○		○	○
公共の人									○
合計	2	1	1	1	1	2	1	1	11

\*表の見方：縦に複数回答したパターンを示している。 (名)  
 (例) 実母・友人からサポートを受けている母親 2名

人が7名であった。Table 2は、夫をサポート源として挙げているが、実母がサポート源となっていない母親のサポートパターンを示した。Table 2にあるように実母からのサポートはなく、夫からサポートを受けている母親が40名で、夫のみのサポートが13名、夫と友人のサポートが12名と多かった。Table 3には、夫をサポート源としない母親のサポートパターンを示した<sup>2)</sup>。Table 3に見られるように、夫からのサポートがなく、一方で実母からサポートを受けている母親が9名であった。これらのパターンを比べると、夫と実母からサポートを受けている母親は、友人や親族、実父などから多くのサポートを受けていた。一方、実母からサポートがない母親は、夫のみあるいは夫と友人からのサポートと、サポート源が少なかった。

次に、人数の多かった夫からも実母からもサポートを受けている母親（「夫と実母からのサポート」群 86名）、実母からのサポートはなく夫からサポートを受けている母親（「夫からのサポート」群 40名）の2群で比較を行うことにした。なお、実母からのサポートの有無と母親の就労形態（フルタイムとパート・専業主婦）との関連を見たところ、有意差は認められなかった ( $\chi^2(1) = 1.02, n.s.$ )。

(1) サポート源によるサポート内容の違い

サポート源の違いによりサポート内容が異なるのかを見るために、「夫と実母からのサポート」群と「夫からのサポート」群で、サポート尺度の総得点の差を見たところ、Table 4に示したように有意な差が認められた ( $t(124) = 1.20, p < .05$ )。そこで具体的なサポート内容の違いを見るために、両群のサポート尺度の各項目得点の差を分析した。その結果、Table 4に示したように、項目 5 ( $t(124) = 2.32, p < .05$ )、項目 11 ( $t(124) = 2.53, p < .05$ )、項目 13 ( $t(124) = 2.44, p < .05$ ) に有意差、項目 6 ( $t(124) = 1.74, p < .10$ ) に有意傾向が認められた。有意差、有意傾向が見られた4項目すべてにおいて、「夫と実母からのサポート」群が「夫からのサポート」群よりも得点が高かった。つまり、「夫と実母からのサポート」を受けていると「夫からのサポート」よりも、母親がそのサポートを提供してくれている人物と行動することを楽しんだり、甘えることがで

Table 4 サポート人物（夫と実母／夫）の違いによる母親の認知しているサポート内容得点

項目	サポート内容	夫と実母 n = 86	夫 n = 40
1	子どもも交えて、行動を共に楽しむ	4.01 (.919)	3.85 (1.06)
2	代わりに幼稚園などの送り迎えをしてくれる	2.76 (1.21)	2.63 (1.28)
3	子どもに気を配ってくれる（ほめる、話しかけるなど）	4.26 (.829)	4.00 (1.11)
4	つらいときや困ったとき元気づけてくれ、接すると心が落ち着く	4.12 (.926)	3.65 (1.39)
5	子どもを交えないで、行動を共に楽しむ	3.17 (1.32)	2.60 (1.24)*
6	子どもが病気のときに病院の同行や家事などを手伝ってくれる	3.58 (1.27)	3.15 (1.35)†
7	子育ての悩みを継続的に聞いてくれる	4.09 (1.05)	3.79 (1.29)
8	あなたの用事のあるときに子どもの面倒をみってくれる	4.01 (1.13)	3.65 (1.31)
9	あなたを日頃評価し、認めてくれる	3.52 (1.10)	3.53 (1.26)
10	子どもに関する情報を提供してくれる	3.67 (1.10)	3.53 (1.41)
11	あなたが経済的に困っているとき、頼りになる	3.21 (1.36)	2.55 (1.38)*
12	仕事の失敗や家事の愚痴を言える	4.14 (1.03)	3.68 (1.27)
13	甘えられる	3.79 (1.16)	3.20 (1.47)*
14	子育てについて助言してくれる	3.93 (1.00)	3.55 (1.34)
15	子どものことを心から受け入れてくれる	4.55 (.65)	4.10 (.928)
16	あなたに時々プレゼントをくれたりする	3.10 (1.22)	2.78 (1.29)
17	忙しいときに家事を手伝ってくれる	3.21 (1.36)	2.93 (1.40)
18	あなたの仕事や趣味に関する情報を提供してくれる	3.19 (1.33)	2.90 (1.45)
19	引越しなどの力仕事を手伝ってくれる	3.43 (1.31)	3.35 (1.39)
20	あなたの子育てをねぎらってくれる	3.45 (1.28)	3.48 (1.32)
	総得点	73.08 (14.99)	66.85 (17.86)*

\* $p < .05$ , † $p < .10$  ( ) は標準偏差

き、経済的に頼りになると感じていた。さらに有意傾向であるが、子どもが病気になったときにも病院への同行、家事の援助も受けやすいと感じていた。

## (2) 母親が認知しているサポートと母親の養育態度、子どもの社会的行動との関連

サポート源の違いにより母親の養育態度、子どもの社会的行動の違いを見るために、「夫と実母からのサポート」群と「夫からのサポート」群で、母親の養育態度の因子得点、子どもの社会的行動の因子得点の差を見たところ、有意な差は認められなかった。しかし、先行研究（飯島、1997；森下・木村、2004）で、周囲からの育児サポートは、子どもの社会性や母親の養育態度に影響を与えていたことから、サポート源の違いによって、その影響も異なることが考えられる。そこで各群それぞれにおいて母親が認知しているサポート全体（サポート総得点）と母親の養育態度、子どもの社会的行動と関連がみられるかどうかを分析した。

### ① 夫と実母からのサポート」群の母親

「夫と実母からのサポート」群の母親 86 名で、サポート総得点と母親の養育態度および子どもの社会的行動との関連を見たところ、子どもの社会的行動の「社会的スキル」( $r = .23$ )に関連が見られたが、母親の養育態度との関連は見られなかった (Table 5 参照)。

### ② 「夫からのサポート」群の母親

「夫からのサポート」群の母親は 40 名で、同様にサポート総得点と母親の養育態度、子どもの

**Table 5** サポート得点と母親の養育態度、子どもの発達的相关係数  
「夫と実母からのサポート」群について (n=86)

母親の養育態度					
	受容／子ども中心	統制専制	一貫性なし	服従	過保護
サポート得点	.092	.12	.034	-.086	.10
子どもの発達					
	学校関係スキル	情緒的成熟	自立	社会的スキル	自己主張
サポート得点	.017	.048	-.036	.23*	-.047

\* $p < .05$

**Table 6** サポート得点と母親の養育態度、子どもの発達的相关係数  
「夫からのサポート」群について (n=40)

母親の養育態度					
	受容／子ども中心	統制専制	一貫性なし	服従	過保護
サポート得点	.49**	.033	-.062	.21	-.31†
子どもの発達					
	学校関係スキル	情緒的成熟	自立	社会的スキル	自己主張
サポート得点	.21	.093	.31	.40*	.19

\* $p < .05$

サポート得点と母親の養育態度、子どもの発達的相关係数

社会的行動との関連を見た。その結果、Table 6 に示したように、母親の養育態度の「受容／子ども中心主義」( $r = .49$ )、「過保護」( $r = -.31$ )、子どもの社会的行動の「社会的スキル」( $r = .40$ )に関連が見られた。

### (3) 家族外のサポートの違い

家族以外のサポート（友人や幼稚園の先生などの公共の人）について、「夫と実母からのサポート」群と「夫からのサポート」群、それぞれの群で家族外からのサポートの違いによる母親の養育態度、子どもの社会的行動の違い、さらにサポート内容の違いを見た。

#### ① 「夫と実母からサポート」群の家族外サポートについて

「夫と実母からのサポート」群において、家族外からのサポートの違いによる母親の養育態度、子どもの社会的行動の違いを見た。その結果、母親の養育態度、子どもの社会的行動に有差な差は見られず、サポート内容の項目 11 のみに有意傾向が見られた ( $t(82) = 1.71, p < .10$ )。家族外のサポートがない母親 (64 名) ほうがサポートがある母親 (22 名) よりも得点が高かった (家族外サポートなし: 3.64 ( $SD = 1.47$ ), 家族外サポートあり: 3.06 ( $SD = 1.30$ ))。

#### ② 「夫からのサポート」群の家族外サポートについて



**Table 7 「夫からのサポート」群の家族外のサポートの違いによる母親の養育態度と子どもの社会的行動の得点**

	家族外のサポート	
	なし n = 14	あり n = 26
母親の養育態度		
受容子ども中心	48.29 (5.84)	49.94 (4.45)
統制専制	27.43 (4.48)	28.08 (6.03)
一貫性なし	13.57 (3.46)	14.07 (3.79)
服従	10.64 (2.56)	12.19 (3.23)
過保護	21.46 (4.17)	17.98 (3.15)**
子どもの社会的行動		
学校関係スキル	6.43 (3.01)	6.77 (2.89)
情緒的成熟	9.57 (3.20)	9.92 (2.88)
自立	11.64 (2.06)	12.00 (2.00)
社会的スキル	11.21 (2.55)	12.30 (2.07)
自己主張	9.07 (2.27)	10.62 (2.61)†

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$ , † $p < .10$  ( ) 内は標準偏差

**Table 8 「夫からのサポート」群の家族外サポートの違いによる母親の認知しているサポート内容得点**

項目	サポート内容	家族外サポート		t 値
		なし n = 14	あり n = 26	
1	子どもも交えて、行動を共に楽しむ	3.43 (1.09)	4.08 (1.02)	-1.88†
2	代わりに幼稚園などの送り迎えをしてくれる	1.64 (.74)	3.15 (1.19)	-4.31**
3	子どもに気を配ってくれる (ほめる、話しかけるなど)	3.50 (1.09)	4.27 (1.04)	-2.19*
4	つらいときや困ったとき元気づけてくれ、接すると心が落ち着く	2.57 (1.22)	4.23 (1.11)	-4.36**
5	子どもを交えないで、行動を共に楽しむ	1.79 (.80)	3.04 (1.22)	-3.46**
6	子どもが病気のときに病院の同行や家事などを手伝ってくれる	2.64 (1.39)	3.42 (1.27)	-1.79†
7	子育ての悩みを継続的に聞いてくれる	2.71 (1.33)	4.35 (.85)	-4.75**
8	あなたの用事のあるときに子どもの面倒をみってくれる	2.79 (1.42)	4.12 (.99)	-3.46**
9	あなたを日頃評価し、認めてくれる	2.57 (1.09)	4.04 (1.04)	-4.19**
10	子どもに関する情報を提供してくれる	2.43 (1.40)	4.12 (1.03)	-4.35**
11	あなたが経済的に困っているとき、頼りになる	2.93 (1.27)	2.35 (1.41)	1.29
12	仕事の失敗や家事の愚痴を言える	2.86 (1.17)	4.12 (1.11)	-3.36**
13	甘えられる	2.43 (1.28)	3.62 (1.42)	-2.61*
14	子育てについて助言してくれる	2.71 (1.38)	4.00 (1.10)	-3.23**
15	子どものことを心から受け入れてくれる	3.64 (1.01)	4.35 (.80)	-2.42*
16	あなたに時々プレゼントをくれたりする	2.57 (1.40)	2.88 (1.24)	-.73
17	忙しいときに家事を手伝ってくれる	2.50 (1.34)	3.15 (1.41)	-1.42
18	あなたの仕事や趣味に関する情報を提供してくれる	1.79 (.89)	3.50 (1.33)	-4.30**
19	引越などの力仕事を手伝ってくれる	3.50 (1.34)	3.27 (1.43)	.50
20	あなたの子育てをねぎらってくれる	2.79 (1.31)	3.85 (1.19)	-2.60*

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$ , † $p < .10$  ( ) 内は標準偏差  
すべて  $d = 38$

「夫からのサポート」群において、家族外からのサポートによる母親の養育態度、子どもの社会的行動、サポート内容の違いを見た。その結果、Table 7 に示したように母親の養育態度の「過保護」に有意な差 ( $t(38) = 2.97, p < .01$ )、子どもの社会的行動の「自己主張」に有意傾向 ( $t(38) = -1.87, p < .10$ ) が認められた。サポート内容について、Table 8 に示したように項目 2、3、4、5、7、8、9、10、12、13、14、15、18、20 に有意差が認められ、家族外のサポートがある母親のほうが家族外のサポートがない母親よりも得点が高かった。

#### (4) 別居している祖父母との交流頻度について

祖父母との交流頻度について、「夫と実母からのサポート」群の平均が 2.39 ( $SD = .84$ )、「夫からのサポート」群の平均が 3.10 ( $SD = .72$ ) であった。つまり、交流頻度を尋ねた具体的な頻度に合わせると、夫と実母のサポートがあると、祖父母との交流頻度は週に 1~2 回程度、実母からのサポートがない場合、1ヶ月に 1~2 回くらいであった。

## 考 察

本研究では、幼児期の子どもを持つ母親がサポート源（夫や実母、家族以外）からどのような育児サポートを受けているのか、さらに実母からのサポート、家族外からのサポートの違いによって母親の養育態度、子どもの社会的行動とどのような関連があるのかを検討した。

その結果、母親が受けているサポート源について、配偶者である夫と回答する母親がもっとも多く、渡辺・石井（2009）と一致していた。本研究では、実際に夫がどのように参加しているのかを尋ねていないため、具体的なサポートについて明確ではないが、母親が夫から何らかの育児サポートを認知していることは示されたとと言える。

母親が挙げたサポート源は夫に次いで、友人、実母が多かった。母親が、夫以外に実母や友人を挙げることは、佐藤（1988）と一致している。特に実母からのサポートを受けることは統計調査や先行研究（高齢者白書、2005；全国家庭動向調査、2008；山田ら、2005 など）でも報告されている。サポートパターンを詳細に見ると、夫と実母からのサポートを得られている母親は、実父や親族、友人からもサポートを受けていると認知しているが、夫からのサポートは得られているが、実母からのサポートがない母親は、夫のみあるいは夫と友人と、実母のサポートがある母親よりもサポート源が少なかった。このことから、母親にとってサポート源としての実母の存在は、子育てにおいて、より多くのサポートを得る重要な要素になっていると言える。

また、夫と実母からのサポートを受けていると実母のサポートがなく、夫からサポートを受けているよりも、母親がそのサポートしてくれている人物とともに行動することを楽しんだり、その人物に甘えることができ、経済的にも頼りになると感じていた。これらのサポート内容のうち、楽しんだり、甘えることは、母親にとって実際の育児サポートというより、情緒的あるいは精神的サポートと考えられる。さらに有意傾向ではあるいが、母親は子どもが病気になった

ときに病院への同行、家事の援助も受けやすいと感じていたことも精神的なサポートとも考えられる。つまり、母親の精神的なサポートにおいても高齢社会白書（2005）や全国家庭動向調査（2008）の報告と同様に、実母は大きな存在と言える。

この実母からのサポートの違いは、両群の祖父母との交流頻度の違いにも現れているのかもしれない。祖父母との交流頻度は、実母からのサポートがある群では週に1~2回、実母からのサポートがない群では月に1~2回くらいであった。本研究の母親の大多数が同居していないと答えていることから、実母の住まいと物理的にそれほど離れておらず、毎週行き来できるくらいの距離にいたと思われる。亀口（2002）は、通信手段や交通手段の発達により祖父母との関係は心理的距離が重要になっているとしているが、幼児期の子どもがいる母親にとって心理的、物理的、両方がともなって、初めて実母からサポートを受けていると感じるのではないだろうか。

次に家族外のサポートについて、夫と実母からサポートを受けていると家族外のサポートの有無による母親のサポート認知に差が見られなかった。これは興津（2002）が指摘しているように、実母からも夫からもサポートを提供されることで、母親は十分なサポートを受けていると認知し、ほかに育児サポートを積極的に求めないことを示していると言える。一方、実母のサポートがないと家族外サポートの有無によって、母親の認知するサポートに大きな違いが見られた。つまり、夫と実母のサポートがあれば、母親にとって十分なサポートが受けられていると感じ、家族外のサポートはそれほど大きな影響を与えないと考えられる。しかし、実母のサポートがなく、夫からのサポートが主である場合、家族外サポートの影響が出てくるといえる。このことは今後、サポートネットワークを考える上で示唆に富む。つまり、実母からのサポートがあるかないかにより、サポートネットワークの作り方が違ってくると考えられる。

また本研究の調査対象者は実母と同居をしていない核家族の母親がほとんどであり、専業主婦である母親が多いことから、実母からのサポートは有職の母親（山田ら、2005）だけでなく、専業主婦にとっても大きいと考えられる。本研究の結果から、夫からのサポートはほとんどの母親が認知しているため、現在の育児において実母からのサポートの有無が大きな影響を与えると考えられる。樋口（2006）が述べたように、母親にとって「まさかの時は身内の女」として実母は子どもの育児において大きな存在だと言える。

次に母親が認知しているサポートと子どもの社会的行動との関連について、「夫と実母からのサポート」を受けている母親と「夫からのサポート」を受けている母親では関連の強さに違いはあったが、両サポート群ともに子どもの「社会的スキル」<sup>3)</sup>と関連が見られた。飯島（1997）の研究が示しているように、母親がサポートを受けていると認知していればいるほど、子どもの社会的スキルが高くなっていった。この結果から、母親が多くのサポートを受けているということは、母親自身が社会的に色々な人と関係を持っているということであり、そうした母親の社会性を子どもが学習していると解釈できる。

母親の養育行動とサポートの関連について、「夫と実母からのサポート」群では、母親の養育態度とサポートの関連は見られなかったが、「夫からのサポート」群では母親の養育態度のうち

「受容／子ども中心主義」と「過保護」と関連が見られた。本研究では専業主婦が大多数であることを踏まえると、母親は実母からの直接的な育児サポートがない分、子どもと直接向き合う時間が長く、そのため子育てへの責任を感じていると考えられる。母親の子育てへの思い入れが強い分、自分の養育態度にも細心の注意を払い、その結果、母親の養育態度との関連の違いが出てくると考えられる。

本研究の結果から、実母からサポートを受けているとサポートサイズが大きく、情緒的サポートをより多く受けていると母親が感じていた。つまり、母親が夫のサポートを認知し、さらに実母のサポートの有無によって、家族外のサポートの認知に大きく影響することが明らかとなった。一方で、実母からのサポートについては、大日向（2006）、樋口（2006）が示唆しているように母親が娘から抜け出せないままで母親になりきれず、母娘関係が子育ての環境を狭める危険というデメリットもある。今後は本研究で明確にしきれなかった実母との関係性をも含めたサポートについて検討し、幼児子育て期の母親にとってよりよい育児サポートを明確にしたい。

#### 注

- 1) 母親の自宅から祖父母の自宅まで、よく利用する交通手段を使用した場合に要する時間を示す（全国家庭動向調査、2008）。
- 2) 夫をサポート源に挙げていないが、11名の母親はひとり親ではない。
- 3) 本研究が示す社会的スキルとは、子どもが自分のおもちゃを友達に貸して、一緒に遊べること、友達とけんかをせずに適当な解決をつけられるなどコミュニケーション能力を含んでいる。

#### 引用文献

- 芳賀道. (2001). 母親の育児ストレスに対する父親のソーシャル・サポートの緩衝効果について. 中央大学大学院年報, 30, 211-218.
- 樋口恵子. (2006). 祖母力. 新水社
- 飯島婦佐子. (1997). 家族システムと幼児の自己の発達－父親の性役割観、母親からみた父親のソーシャルサポートの母性意識－. 性格心理学研究, 1, 50-64.
- 亀口憲治. (2002). 家族心理学特論－システムとして家族を考える－. 財団法人放送大学教育振興会
- 数井みゆき・無藤隆・園田葉摘. (1996). 子どもの発達と母子関係・夫婦関係：幼児を持つ家族について. 発達心理学研究, 7(1), 31-40.
- 幸田早苗・城谷ゆかり. (1998). 幼児の主張的行動と母親の発達期待との関係：出生順位との関わりについて. 北海道大学教育学部紀要, 76, 105-118.
- 国立社会保障・人口問題研究所. (2008). 第4回全国家庭動向調査 財団法人厚生等統計協会
- 高齢社会対策. (2005). 高齢社会白書「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」内閣府
- 松田茂樹. (2001). 育児ネットワークの構造とサポート力. 家族研究年報, 27, 37-48.
- 森下正康・木村あゆみ. (2004). 母親の養育態度におよぼす内的ワーキング・モデルとソーシャルサポートの影響. 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 14, 123-131.
- 中西泰子. (2005). 育児期女性のサポートネットワークと生活満足度－妻方親族サポート効果に注目して－. 社会学論考, 26, 25-36.
- 野澤義隆. (2009). 同居家族の違いが乳幼児をもつ母親の育児ストレスとソーシャル・サポートに与える影響. 立正福祉研究, 11(1), 29-35.
- 興津真理子. (2002). 幼児を持つ母親のサポート・ネットワーク－三世代家族と核家族の比較－. 福岡県

- 立大学紀要, 11(1), 61-72.
- 大日向雅美. (2006). 家族・地域のきずなと子育て支援. *そだちの科学*, 7, 144-148.
- 石曉玲・桂田恵美子. (2010). 保育児を持つ母親のディストレス: 相互協調性・相互独立性およびソーシャル・サポートとの関連. *発達心理学研究*, 21(2), 138-146.
- 佐藤達哉. (1998). 育児期母親の育児関連ストレス・対処・サポートについての基礎的研究. *児童育成研究*, 6, 42-55.
- 鈴木眞雄・松田せい・永田忠夫・植村勝彦. (1985). 子どものパーソナリティ発達に影響を及ぼす養育態度・家族環境・社会的ストレスに関する測定尺度構成. *愛知教育大学研究報告書 教育科学編*, 34, 139-152.
- 田淵恵・中原純. (2007). 祖父母世代における子育て支援と支援意欲への問題意識-祖父母世代と祖母世代の差異に着目して-. *生老病死の行動科学*, 12, 13-22.
- 竹内良恵. (2002). 母親の育児不安・養育態度と夫からのサポート: 夫婦間や必要度との不一致の視点から. (平成13年度心理発達科学専攻修士学位論文概要) *心理発達科学* (名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要), 49, 316-317.
- 寺見陽子・別府悦子・西垣吉之・山田陽子・水野友有・金田環・南憲治. (2008). 今日の母親の育児経験とソーシャル・サポートの関連に関する研究 (1). *中部学院大学・中部学院短期大学部研究紀要*, 9, 59-71.
- 戸須恵子. (2006). 母親の養育行動と幼児の自己制御機能及び社会的行動との関係について. *北海道教育大学釧路分校研究報告*, 38, 59-69.
- 渡辺弥生・石井睦子. (2009). 乳幼児をもつ母親の育児ストレスにソーシャル・サポートおよび自己効力感が及ぼす影響について. *法政大学文学部紀要*, 60, 133-145.
- 山田英津子・有吉浩美・堀川淳子・石原逸子. (2005). 働く母親のソーシャル・サポート・ネットワークの実態. *産業医科大学雑誌*, 27(1), 41-62.

---

[なかみ ひとみ 教育心理学]  
[かつらだ えみこ 発達心理学]  
[せき ぎょうれい 教育心理学]